

多気町教育委員会

結果の公表については、保護者・地域の皆様に学校教育と家庭教育についてのご理解・ご協力を得ることが何よりも大切であると考え、教科に関する結果、学力の背景となっている児童・生徒質問紙調査から見られた本町の児童・生徒の好ましい傾向と教育課題、そして今後の取組についてお示しさせていただきます。

教科に関する調査は、小学校では国語・算数の2教科、中学校では国語・数学の2教科で実施され、多気町立小学校第6学年の児童97名と多気町立及び多気町松阪市学校組合立中学校第3学年の生徒144人が参加しました。調査結果については、小学校・中学校とも全ての教科において全国平均正答率を上回る結果となりました。

【小学校 国語】 ◇…比較的できている点 ◆…課題のある点 [] 内の記号は、問題番号



〔 3一 〕 （正答率：約9割）

〔 3二 (1) 〕 (正答率：約9割)

◆【資料 3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する問題 〔 3 二（ 2 ） 〕（正答率：約 5 割）

◆【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄 A に当てはまる内容として適切なものを選択する問題 〔 3 三（ 1 ） 〕（正答率：約 4 割）

【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する。

【木村さんのメモ】のイに
当てはまる内容として最も
適切なものを、【資料3】
を読み、次の1から4まで
の中から一つ選んで、その
番号を書きましょう。

【木村さんのメモ】

とてもできる？で善い？

今、あわたは「勉強でもてできる」という言い方を妄たとは思わぬという。『でも』は「非常な」の意味を表す。

ところが、100年前はどの大正時代、作家の芥川龍之介は、「とても安い」「とても楽」という言ふ方は新しいと書ています。それより前の時代には「とてもかなない」「とてもまじまらない」のように、「とてもない」の形が普通だったのです。

つまり、大正時代よりも前は「勉強ができてない」とは言わず、「ぼくに、そんなこととてもできない」と言てて、たんですね。この場合の「とても」は、「どうしても」「どうして」「どういふ」という意味を表します。

こんな話と聞くと、「じゃあ、これから『とてもできない』と言おう。『とてもできる』と言わぬようにしよう」と思うかも知れませんが、その必要はありません。

とても古い時代、室町時代には「とても」は「どうせ」の意味で使てていました。たゞては、「とてもで散るべき花」と言えは、「どうせ散る花」という意味です。

これは昔の意味で使おうと思つた、現代では事とぜんくなくなつてきます。「昔はこうだったから、知ることも大事ですが、現代ではどう使れてるか」を、理解するのことも大事です。現代の人は、これは現代の意味で使うのが一番いいのです。

（飯沼明子「日本語のつかまえる」）による。

言葉の変化について分かったこと
「あたらしい」は新しい形

(奈良時代) (平安時代) (今)
あたらし ↓ ア ↓ あたらしい

時代とともに言葉の形が変わる。

とてもできる？できない？

(室町時代) (大正時代より前) (今)
どうせ ↓ どうしても ↓ 非常に

イ

「R7全国学力学習状況調査
小学校国語」より

正答率：
49.5%

課題がみられた問題

解答類型	反応率 (%)
1	49.5
2	21.6
3	25.8
4	3.1

誤答例の分析と課題

【3】を選んだ理由としては、【資料3】を読み、「とても」という言葉の変化について、「世代によってものの呼び方がちがう」と捉えており、「時代とともに言葉の意味が変わる」ということを捉えることができていると考えられます。この中には、【資料3】の内容の中心となる事柄を捉えることができなかった児童がいたと考えられます。また、【資料3】を読まずに、【木村さんの経験】を基にして考えた児童もいたと考えられます。

【木村さんのメモ】のように、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているかを書き出し、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめるなどして、内容の中心となる事柄などを捉えることができる学習の機会を大切にしていきます。その際、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉えることができるようにしていきます。

また、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することの必要性を感じられるように、活動の目的や価値を明確にしておくことが大切です。対話の中で、友達と考えを伝え合ったり、自分の経験や知識を結び付けて考えたりしながら、文章を読む活動の目的を明確にできるような学習の機会を大切にしています。



◇異分母の分数の加法の計算をすることができる。
◆分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述することに課題がある。

＜おおむね理解している問題＞

- ◇ $1/2 + 1/3$ を計算する問題 [3 (4)] (正答率：約9割)
- ◇ 新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ問題 [4 (1)] (正答率：約9割)

＜課題がみられた問題＞

- ◆ $3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く問題 [3 (2)] (正答率：約3割)
- ◆ 方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ問題 [2 (2)] (正答率：約5割)

大問2
(2)

方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ問題

正答率：47.4%

課題がみられた問題

(2) わかなさんは、方眼紙に下の 1 から 5 までの四角形をかきました。
下の 1 から 5 までの中で、台形はどれですか。
3つ選んで、その番号を書きましょう。

1

2

3

4

5

「R7全国学力学習状況調査 小学校算数」より

回答類型		反応率
①	1、3、5 と解答しているもの	47.4
2	1、2、3 と解答しているもの 1、3、4 と解答しているもの 1、3のみを解答しているもの	29.9
3	1、2、5 と解答しているもの 1、4、5 と解答しているもの 1、5のみを解答しているもの	0
4	2、3、5 と解答しているもの 3、4、5 と解答しているもの 1.0 3、5のみを解答しているもの	0
5	1のみを解答しているもの	0
6	1、2、4 と解答しているもの 1、2のみを解答しているもの 1、4のみを解答しているもの	8.2
9 9	上記以外の解答	14.4
0	無回答	0

誤答例の分析と課題

【2】のように解答した児童の中には、選択肢1のような上下に向かい合った一組の辺が平行で上の辺の長さが下の辺の長さよりも短い四角形や、選択肢3のような左右に向かい合った一組の辺が平行な四角形を台形と捉えることはできているが、選択肢5のような上下に向かい合った一組の辺が平行で上の辺の長さが下の辺の長さよりも長く、直角のある四角形を台形と捉えることはできていないと考えられます。

＜今後の学習の手立て＞ 「図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、図形の性質に基づいて図形を弁別する学習機会を大切に」

図形の置き方をいろいろと変えても、図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目して、図形を弁別できるようにすることが重要です。

指導に当たっては、例えば、置き方をいろいろと変えて示された幾つかの四角形の中から台形を弁別し、その理由を説明する活動が考えられます。その際、図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目しながら、図形の性質を基に弁別した理由を説明することで、置き方をいろいろと変えても図形の性質は変わらないことを理解できるようにする学習の機会を大切にしていきます。また、右のように台形でない図形についても、図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目しながら、図形の性質を基に台形でない理由を説明したり、それらの図形をどのように構成し直せば台形になるのかを考えたりすることができるようにしていきます。

「R7全国学力学習状況調査小学校算数報告書」より



◇赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】をもとに、他の条件での結果を予想して、表現することができている。
◆身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身につけていない。

＜おおむね理解している問題＞

- ◇【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ問題
[1 (3)] (正答率：約9割)
- ◇ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く問題
[2 (3)] (正答率：約9割)

＜課題がみられた問題＞

- ◆アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ問題
[2 (1)] (正答率：約1割)
- ◆レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきをもとに、見いだした問題について書く問題
[3 (4)] (正答率：約3割)

大問2
(1)

アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ。

正答率：9.3%

(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の 1 から 4 までの中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 1 電気を通し、磁石に引きつけられる。
2 電気を通し、磁石に引きつけられない。
3 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
4 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

「R7全国学力学習状況調査 小学校理科」より

回答類型		反応率
1	アルミニウム 1、鉄 1、銅 1 と解答しているもの	0
2	アルミニウム 1、鉄 1、銅 2 と解答しているもの	0
3	アルミニウム 2、鉄 1、銅 1 と解答しているもの	3.1
4	アルミニウム 2、鉄 1、銅 2 と解答しているもの	9.3
5	鉄 2 と解答しているもの	2.1
6	アルミニウム、鉄、銅のいずれかに、3 または 4 と解答している	84.5
7	上記以外の回答もの	0
0	無回答	1.0

課題がみられた問題

誤答例の分析と課題

本設問の正答率は9.3%でした。このように解答しなかった児童は、電気を通す物と磁石に引き付けられる物に関する知識が身に付いていないと考えられます。

＜今後の学習の手立て＞ 「学習内容の関係付けによる深い理解の場を大切に」

「磁石の性質」と「電気の通り道」では、鉄、アルミニウム、ガラス、木など、同じ対象物を用いて学習することが多くあります。それぞれの内容で習得した知識を物ごとに整理し、まとめるなどして、物質の性質について理解を深めるようにすることが重要です。「磁石の性質」の学習において、磁石に引き付けられる物と引き付けられない物を調べる際に、「電気の通り道」での実験の結果を振り返りながら、物質の性質に着目して整理する学習活動の機会を大切にしていきます。

児童質問調査からみられた子どもの姿より

多気町の子どもたち

自分には
よいところがある
80.6%
(全国 86.9%)

人が困っている時
進んで助けている
89.3%
(全国 93.7%)

人の役に立つ
人間になりたい
96.1%
(全国 96.4%)

学校に行くのは
楽しい
81.5%
(全国 86.5%)

地域や社会をよくするために
何かしてみたい
81.5%
(全国 81.3%)

※児童質問で肯定的に回答した割合が高かった主な設問より

今年度の調査においても、学習習慣・生活習慣ともに肯定的に回答する児童が多いという結果でした。上記の項目からも多くの子どもたちが安心できる環境の中で学校生活を送っていることがうかがえますし、地域の行事に参加するだけでなく地域のために何かできることはないかを考えている頼もしい姿があることもわかります。日々あたたかく見守り、しっかり支えていただける保護者と地域の方々の力の大きさは本町の強みの一つです。児童一人ひとりが「自分のことを好きになること・自分に自信を持つこと」は学力向上を支える大きなポイントです。今後も家庭・地域の協力のもと、すべての子どもたちが「学ぶ喜び」「わかる楽しさ」を実感できるよう、本調査の結果を学校の職員全体で共有し、個々の教師が授業の工夫・改善へ、活かしていけるよう取り組みを進めていきます。